

議 事 録

日 時：平成21年4月21日（火）14：30～17：00			会 場：地盤工学会会議室		
部 長 古 屋 弘	○	理 事 小 西 真 治	○		
部 員 小 林 恒 三	○	部 員 竹 山 智 英	○	部 員 原 忠	○
部 員 阿 部 知 之	×	部 員 津 野 究	○	部 員 吉 迫 和 生	○
部 員 竹 山 悦 子	×	部 員 王 林	×	部 員 中 野 正 樹	×
事務局 下 山 礼 子	○	事務局 古 藤 田 純	○		

(議事録作成 小林 恒三)

【議 題】

一般事項

《報告・確認事項》

1. 議事録者の指名 ----- (別紙-1)
 - ・ 小林部員が指名された。
2. 前回議事録の確認: 事業部会 (2/24) ----- (別紙-2)
 - ・ 確認された。
3. 平成20年度事業部収支報告 (3月末現在) ----- (別紙-3)
 - ・ 事務局(下山課長)より要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - 一般会計(講習会会計)は収入増(対年度予算比で570万円増)を支出増(同689万円増)が減殺し、収支差では不振(同約113万円減)となった。なお、収入増には(財)科学技術振興機構(JST)の受託業務収入(予定外収入769万円)が大きく寄与し、支出増には講習会人件費(予定外経費増375万円)が大きく影響した。
 - 刊行会計は、収入減(対年度予算比で435万円減)と支出減(同434万円減)とがほぼ相殺し、収支差は微減(同約1万円減)であった。なお、収入減には新刊本の出版遅れに伴う見込み収入減(予年度算度比394万円減)が大きく影響し、支出減には新刊本の出版経費の期ズレ・延期(370万円)が大きく影響した。
 - ・ 講習会人件費の予算計上精度の向上に関して経理課長を招いて説明を求め、今後経理処理の手順を確認した。
4. 平成20年度出版物売上状況報告 ----- (別紙-4)
 - ・ 事務局(下山課長)より要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - 学会直販は売上冊数で約2万冊、売上金額で55,200千円となり、対年度予算比85%と不振であった。
 - 丸善委託は同約1万冊、同27,400千円で、対年度予算比106%と健闘であった。
 - H19～H20年度の新刊本8点の売れ行きは、土壌・地下水関連2編が好調であった反面、トンネル関連1編、GIS関連1編は不振であった。
 - ・ 新刊本の売れ行き及び丸善と学会直販の売れ行きについて下記の意見があった。
 - 好調書籍は何れも実務に不可欠なテーマを扱ったものが多く、今後の出版企画で留意したい。
 - 丸善は営利第一の販売方法(例えば売れ筋書籍のみの仕入れ・店頭展示など)がとれるが、直販で同様のことは出来ない。ただ、学会としては丸善のマーケティングを企画に活かすなど見直す余地はある。
5. 平成21年度事業部予算(第四次案) ----- (別紙-5)
 - ・ 事務局(下山課長)より要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - 第四次案は第三次案と変わらない。
 - 収入、支出、収支差の何れも縮小型予算となっている。
 - 学会全体としては、赤字予算を振興基金の取り崩しで補填する構造となっている
 - ・ 講習会人件費は“時間配分を基本とした管理費”の項目で762万円が予算計上されていることを確認した。
6. 第11回事業企画賞 ----- (資料なし)
 - ・ 事務局(下山課長)より、表彰委員会にて下記2件が決定されたことが報告され、了承・確認された。
 - 本部: Webラーニングプラザ教材作成「地盤の液化化と軽減技術」
 - 東北支部: シンポジウム『1978年宮城県沖地震30周年記念シンポジウム』

7. その他

- ・ 事務局(下山課長)より、不良在庫処分に伴う倉庫管理費の節減効果(年額約 15 万円)の報告があり、了承・確認された。

出版企画委員会

《報告・確認事項》

1. 前回議事録の確認 (別紙-7)

- ・ 小西理事兼出版企画委員会委員長より説明があり、了承・確認された。

報 2. 2008 年度販売促進キャンペーン開催報告 (別紙-8)

- ・ 事務局(下山課長)より、要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - キャンペーン期間中(2009.1~209.3)の販売冊数は 1641 冊(過去4年間の平均販売冊数対比 364%)、販売収入は 356 万円(同上対比 283%)であり、大きな効果があった。
 - 大きな効果を生んだ背景には過去最高の割引率(最大5割引き)の設定、浅岡会長からの直接依頼の効果(中部支部の大学各研究室宛)が考えられる。

報 3. 廃棄書籍の報告 (別紙-9)

- ・ 事務局(下山課長)より、要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - 販売促進キャンペーンの結果も踏まえて廃棄処分の対象書籍数は当初の約12,000冊から11,800冊になり、計画どおり廃棄される。

《審議事項》

報 1. ショッピングカートの改善 (別紙-6)

- ・ 事務局(下山課長)より、業者の見積書について説明があった。
 - 初期投資約 96 万円以外に継続的な管理費として業者サーバーのホスティング料約 25 万円が付加され、合計約 121 万円となる。この結果、H21 年度予算案計上額 95 万円を 26 万円超過する。
 - 本年 6 月から運用開始出来るよう業者に作業を要望中。
- ・ 本件は理事会承認済みであり、見積金額は受け容れざるを得ないとして作業進めることになった。なお、サーバーホスティング料の計上期間は見積書では 12 ヶ月であるが、6 月~3 月までの 10 ヶ月と修正するものとする。

報 2. 新刊本の初版印刷部数、価格 (別紙-10)

- ・ 下記の事務局原案が承認された。
 - 「原位置岩盤試験データベース」初版印刷部数 500 部、一般価格 6,195 円(会員特価¥4,305 円)

報 3. 既刊本の増刷 (別紙-11)

- ・ 下記の事務局原案が承認された。
 - 「入門シリーズ 20 環境地盤工学入門」増刷 500 部
 - 「君ならどうするー建設技術者のための倫理問題事例集」増刷 500 部
 - 「弾塑性有限要素法を使う」増刷 300 部

4. 地盤工学・実務シリーズの原稿書式について (資料なし、口頭)

- ・ 小西理事兼出版企画委員会委員長より要旨下記の説明・提案があった。
 - 実務シリーズの原稿書式(そのスタイルのままダイレクト印刷)については、前回事業部会において 2 段組 9 ポイントが基本(これに依り難い場合は個別に協議する)と決定されたところであるが、「実務シリーズ 28: 土の締固め」、「同 30: シールド工法」については、下記事由により 1 段組 10.5 ポイントを採用したい。
 - 2 段組では挿入図の大きさが限定される上、挿入位置の編集作業が難しい。
 - 読者への便宜としてフォントを大きくしたい(電車等の中でも読み易くなるように配慮したい)。
- ・ 審議の結果、原案が承認された。なお、審議中の意見(既刊の実務シリーズとの書式の一貫性)への対応のため、出版企画委員会で実務シリーズの書式の考え方を文書化することになった。

報 5. 平成 21 年度出版企画委員会(含む事業部会)構成について (別紙-12)(別紙-22)

- ・ 新体制を承認した。
 - 新任委員 5 名(敬称略: 李圭太:(株)建設技術研究所、岡野靖: 応用地質(株)、戸本悟:(株)建設技術研究所、中村勉: 西松建設(株)、清木隆文: 宇都宮大学) ※事業部員と兼任委員はハッチでマーキング
 - 留任委員 10 名(氏名省略)

技術普及委員会

《報告・確認事項》

1. 前回議事録の確認(4/2) (別紙-13)

- 古屋理事兼技術普及委員会委員長より説明があり、了承・確認された。

報 2. 平成20年度講習会開催・収支報告 (資料なし、口頭)

- 事務局(古藤田)より説明があり、了承・確認された。
 - 2～3月の集客数は、予定数を超過したものが2本(下表ハッチ)あるなど好調であった。
 - H20年度全体を通してみると、8本の講習会の中止にも拘わらず、参加者総数は延べ1,473名で、対前年度比で微増となった。

講習会収支一覧表:2月, 3月開催

講習会名	会場	収入予算(円)	会員	非会員	学生	後援	予定	参加者
	開催日		収入予算(円)		収入実績(円)		実績の収支差(円)(見込み)	
近接工事の調査・設計・施工講習会	JGS会館	511,000	49	14	1	0	40	64
	2月13日		511,000		967,000		681,448	
建設・産業副産物の地盤工学的有効利用講習会	JGS会館	507,000	22	12	0	0	40	34
	3月6日		507,000		636,000		400,334	
土の弾塑性構成モデル講習会	JGS会館	388,000	49	9	2	0	40	58
	3月27日		388,000		591,000		174,110	
これまでの計(今年度)		15,459,000	19,457,000		10,541,037		8,915,963	

報 3. Webラーニング納品およびコンテンツ公表 (別紙-14)

- 古屋理事兼事業部長(プロジェクト総括責任者)より要旨下記の説明があり、了承・確認された。
 - 契約納期には若干の遅れがあったが、3/末に所要の成果品(コンテンツ)を(財)科学技術振興機構(JST)納品出来た。
 - このコンテンツは既にWebラーニングプラザ(JST運営)にアップロードされている。
 - 初級向けで一般市民に見て欲しい内容である。事業部部員関係者にもPRして戴きたい。

《審議事項》

報 1. 平成21年度講習会企画(案) (別紙-15)

- 下記11件について、原案どおり開催することが決定された。
- なお、休憩時間の取り方、及び会告の文章体裁の不統一は事務局で修正することとなった。
 - はじめて学ぶFEM講習会(5/18.19開催)
 - 地盤・耐震工学入門講習会(5/29開催)
 - 地下水を知る(前:わかりやすい地下水工学)講習会(6/4開催)
 - 続・土壌・地下水汚染の調査・予測・対策(6/11開催)
 - わかりやすい構造物基礎(6/12開催)
 - 地盤環境振動対策工法講習会(6/16開催)
 - 土質基礎に関する技術-技術士受験のポイント-講習会(6/17.18開催)
 - 第1回実務者のための土と基礎の設計計算演習講習会(7/7.8開催)
 - 基礎構造物の信頼性設計(7/10開催)
 - 土砂災害ハザードマップ(8/11開催)
 - やさしい補強土(7/29開催)

報 2. オンデマンド講習会 (別紙-16)

- 古屋理事兼事業部長より「オンデマンド講習会の試行について」と題する会告初稿について説明があった。
 - H21年度中にオンデマンド講習会を試行するべく技術普及委員会で鋭意準備中である。
 - 開催本数は当初6本の予定で会告初稿にもそのように明記したが、実務面での業者協議に更なる時間を要することから、試行開始は7月以降の開催分5本としたい。
- 審議の結果、上記は了承された。なお、審議中の意見(会告をもう少し分かり易く噛み砕いたものにする(図示など)/H21年度事業部予算案におけるオンデマンド講習会の明確化/法人組織のオンデマンド講習の受講ニーズを踏まえた試行方法の設定)に対しては古屋理事兼事業部長が関係者に伝えることになった。

報 3. 60周年記念事業(関東支部との連携、シンポジウム形式)について————— (別紙-17)

- ・ 担当の小林事業部員より前回事業部会以降の経緯について要旨下記の説明があった。
 - 3/5: 関東支部(企画総務グループ)との協議で共催方式が快諾された。
 - 3/10: 本部 60 周年行事委員会で上記が承認された。
 - 今後: 実現化に向けて関東支部と共同の実行委員会を組織し、詳細を詰めていく予定である。
 - 事業部(長)から関東支部に宛てた2文書(「60周年記念講演会の開催について」:4/2、「(仮称)市民向け地震防災講演会の実施に向けた事業部の基本的立場と考え方」:4/20)の事後承諾をお願いしたい。
- ・ 審議の結果、上記を承認・追認し、引き続き小林部員、王部員の2名が事業部側委員として実行委員会に加わり、本企画を進めていくことが確認された。

報 4. H 21 年度講習会コース制の改正(継続教育委員会からの提案)について————— (別紙-18)

- ・ 古屋理事兼事業部長より継続教育委員会との協議結果について要旨下記の説明があった。
 - 複数のコース制を併願申請した受講者にもCPDのインセンティブが感じられることは重要である。今回、その成立要件を改正することになるが、上記の立場は変わらない。
 - 事業部提案の改正案は多方面への配慮のためにルールが輻輳し、受講者にとって必ずしも分かり易いとはいえない。以下に示す単純なルールを事業部が承認すれば継続教育委員会は改正に同意する。「2つ目のコースについては、1つ目のコースの終了判定に用いた講習会以外で新たに6つ以上の講習を受講した上で、12講習、72ポイントの条件を満たせばよい。」
- ・ 審議の結果、継続教育委員会の上記提案を受け入れることが決定された。

報 5. 平成 21 年度技術普及委員会(含む事業部会)構成について————— (別紙-19)(別紙-22)

- ・ 新体制を承認した。
 - 新任委員 2 名(敬称略: 柳尾健基礎地盤コンサルタンツ(株)、秦樹一郎:(株)東京ソイルリサーチ) ※事業部兼任委員なし
 - 留任委員 13 名(氏名省略)

販売促進・企画 WG

《報告・承認事項》

1. 販売促進・企画WG開催報告————— (別紙-20)

- ・ 小西理事兼出版企画委員会委員長より要旨下記の説明があり、確認された。
 - 建設的意見が多く出された。(オーム社への一部委託出版/調査研究部の報告書のリメイク出版等)
 - 上記への対応のため、出版企画委員会内に小委員会(企画WG/活動改善WG/販売促進WG等)を設置し、審議・検討していく予定である。

審議事項

1. 事業企画賞に関する表彰方法について————— (別紙-21)

- ・ 古屋理事兼事業部長より、表彰委員会からの要請書について説明があった。
- ・ 次回事業部会で検討することになった。

2. 新刊本の収支管理————— (別紙-23)

- ・ 事務局(下山課長)より個別書籍の収支管理の合理化について説明があった。
- ・ 今後事務局での運用効果と課題を見極めていくことになった。

その他

- ・ 今後事業部会開催日を以下のように予定することになった。
 - 次回:6/8(月) 15:00~17:00 於:JGS 会館又は鹿島建設本社(赤坂)
 - 次次回以降:7/14(火)、9/15(火)、11/17(火)、1/12(火)、3/9(火)、4/27(火)の予定
- ・ 次回理事会(臨時 4/24(金)への提案事項を確認した。(議事録の見出しの頭に下記マーキング)
 - **報**: 報告事項 **予審**: 予備審議事項 **審**: 審議事項

参考: 今後の理事会開催予定

20 年度:4/24(金)、5/15(金)、5/28(木)

21 年度:7/24(金)、9/25(金)、11/27(金)、1/22(金)、3/19(金)、4/23(金)、5/14(金)、総会 5/27(木)

参考: 事業部の各委員会の開催予定

出版企画委員会:6/26(金)

技術普及委員会:5/21(木)

以上